



よいことの
ために
手を取りあおう

- ◆国際ロータリー会長
フランチェスコ・アレツツォ(イタリア・ラグーザRC)
- ◆第2660地区ガバナー 吉川 健之(大阪北RC)
- ◆クラブテーマ 「こっから、おもしろくなるよ！」

本日例会 2025年11月6日(木) 第1014回

「創立25周年
記念例会」



前回例会 2025年10月16日(木) 第1013回

1. 開会 会長
2. ロータリーソング「それでこそロータリー」
3. お客様のご紹介
米山奨学生 宋 ハヌルさん
4. 委員会報告
 - ①9/20(土) 社会奉仕・国際奉仕委員長合同会議出席報告
 - ②G G職業研修事業経過報告
国際奉仕委員会 小林委員長
5. 幹事報告
 - 摂津RCからの案内
摂津RC創立55周年式典前夜祭ウェルカムナイト案内
開催日時 11月14日(金) 18:00~20:00
開催場所 パンプキンロックス
入場無料、時間内の入出自由
 - 例会休会連絡
10月23日(木) 細則休会
10月30日(木) 定款休会
 - 次回例会開催日
11月6日(木) 創立25周年記念例会開催
例会場:アゴーラ例会場
祝宴:「マジョリカ」
出欠確認回覧実施
6. 出席報告(会員総数15名)
10月16日 出席8名 欠席7名 出席率53.33%
メイクアップ報告
9月11日 出席10名 欠席5名 出席率66.67%
(メイクアップ者2名)
7. 会長の時間

8. 本日のプログラム

担当:国際奉仕委員会

卓話:「看護実習で学んだ人とのつながり」

卓話者:米山奨学生 宋 ハヌルさん

9. 閉会 会長

会長の時間

先月9月8日から続けているランニングですが、毎朝、太子橋から大日に向かって河川敷を30分走っています。記録を見ると今日までに30回走っていました。時間を30分と決めていたので、始めた頃は数分しか走れず、残りの数十分を歩いていました。続けていくうちに走れる距離が延びて、今は往復で5.8キロを30分で走れるようになりました。体調面では、初日はもちろん筋肉痛ですが、今も徐々に距離を伸ばして負荷をかけているので、毎日筋肉痛の状態ではありません。仕事が多いため腰が座ることの多い事務職なので腰痛が悩みでもありましたが、それは改善されています。体重と体脂肪率は上下を繰り返していましたが、急に体脂肪率が下がったので、少し効果がでているのではないかと嬉しく思いました。今のところ走ることは全く楽しいと思えていません。走る前に戻ることが嫌なだけで走り、気が乗らない日も動き出せばなんとかなるので走ることをくせ付けようと思っています。会員増強活動も同じく1日1回、増強のことを思う、誰かに声をかけることをくせ付ける。最初は結果がでないかもしれませんが、今年度末には何か変わっていることを期待して、今できることを毎日続けていくことが大切だと思っています。



次回例会 2025年11月13日(木) 第1015回

担当:国際奉仕委員会

卓話:「クラブフォーラム」

11月の休会日

11月20日(木)、11月27日(木)

卓話 「看護実習で学んだ

“人とのつながり”」

米山奨学生 宋 ハヌルさん

【昨年の卓話の振り返り】

昨年はRYLAに参加し、多様な人との出会いや学びを得ました。言葉だけでなく、表情や態度など非言語的なコミュニケーションも含め、人と人をつなぐことの大切さを学びました。



多様な背景を持つ人たちと関わる中で、共感する力や自分の考えを伝える力も磨かれました。グループ発表を通して自信を持って意見を言えるようになったことも成長の一つです。こうした学びは、看護の現場でも生きています。患者さん一人ひとりの価値観や文化を理解し、共感をもって関わるのが大切です。RYLAで学んだ「つなぐ力」や「共感する姿勢」は看護の土台になると感じ、この学びを意識して臨んだのが今年の看護実習でした。今日はその中で感じた“人とのつながり”をお話します。

【患者とのつながり】

最初に、患者とのつながりについて、一番印象に残っている患者さんのエピソードをご紹介します。私の受け持ち患者さんは、70代男性の方で、がんのためその臓器を全摘出する手術を受けられました。ロボット手術ではありましたが、手術部位からの感染予防等々の観点から、清潔を保持する必要がありました。しかし、患者さんはお風呂に抵抗を感じていました。私は看護学生として患者さんが協力してくれないとどうしようという不安感と、お風呂に入ってもらわないと患者さんの命にも関わってくるかもしれないので困っていました。そこで私は、まずなぜお風呂に抵抗を感じているのかを丁寧に聞くことから始めました。何か理由があると思ったからです。患者さんは、たくさん管が入っていることや、手術後の傷口に水が入っていかの不安を持っておられました。私はそういう不安もあるのだと気づきました。患者さんの気持ちに共感し、「そうですよね。不安ですよ。」と受け止めたうえで、「退院してから困らないように、傷口の洗いを説明しますので、入院中に一緒に試してみませんか？」とお伝えしました。すると、患者さんは「学生さんの説明で安心した」と笑顔を見せてくださり、実際にお風呂に入ってくださいました。今回の実習を通して、私は「患

者とのつながり」とは、単に言葉を交わすことではなく、相手の思いや不安を理解しようとする姿勢から生まれるものだと感じました。この経験から、「伝える」ではなく「伝わるように関わる」ことが、患者さんとのつながりを深める第一歩であると学びました。

【家族とのつながり】

次は、家族とのつながりです。小児実習で受け持った生後6か月の患児は、脳性麻痺と診断され、吸引などの医療的ケアが必要な状態でした。私は初めての实習ということもあり、「何かしなければ」と思い、お母さんの面会中もずっとそばで見守っていました。しかし、担当の看護師さんから「親子だけの時間をつくることも、愛着形成のために大切だよ」と言われました。その言葉をきっかけに、私は少し距離を取り、お母さんが安心してお子さんと関われるように見守るようにしました。お母さんが赤ちゃんに優しく声をかけている姿を見て、家族の絆を支えることも看護の一部だと感じました。この経験を通して、看護は患者さんだけでなく、家族全体を支えるのが大切だと学びました。家族が安心して関われる環境を整えることが、結果的に患者さんの安心にもつながると感じています。

【チームとのつながり】

総合実習では、カンファレンスや多職種連携を通して、チーム全体で患者さんを支える姿勢を学びました。病棟リーダー実習では、リーダーが優先順位を判断し指示を出す姿や、メンバーとして報連相を徹底する重要性を体感しました。看護師は、患者さん・家族・多職種をつなぐ架け橋だと実感しました。RYLAで学んだ「リーダーシップとは共に成長していくこと」という考え方が、チームの一員としての行動にも生きていると感じます。

【つながりを未来へ】

実習やRYLAでの経験を通し、看護において“人とのつながり”が何より大切だと感じました。患者さんや家族、チームの人々とのつながりが信頼や安心を生みます。このような学びの機会をくださったロータリーの皆さまにも感謝しています。これからは、相手の気持ちに寄り添える看護師を目指し、小さな“つながり”を未来の看護へとつなげていきたいと思っています。

